

# 藤岡中央高生

## 「ごみ出し」で市と協働事業

# のぼり旗でマナーPR

高校生の目線で藤岡市の課題を探る藤岡中央高(大槻恭子校長)の特別授業「ふじおか未来探求」の成果の一つとして、3年生3人のチームが考えた「ごみ出し

マナー」問題の研究が市との協働事業に採用された。生徒がデザインしたマナーアップを呼びかけるのぼり旗が年内にも神流地区に設置されるほか、チラシは広

報紙とともに同地区に配布される。

特別授業は2年時から1年間かけて、地域の問題を住民らと話し合い、解決のための方法を考える内容。

市内8地区にそれぞれ3チーム、合計24チームがテーマを決めて研究してきた。

「ごみ出しマナー」は芳賀宇乃さんと堀越美羽さん、松本玲名さんが担当。

同地区の区長らと共にごみ収集の現状を調査した。その結果、火曜と金曜の収集日時が守られず、前日に出されたごみが動物たちに荒らされてしまったり、地区外から持ち込まれたと思われるごみが出されていることが分かった。

3人は解決策として、の



「ごみ出しマナー」について調べた芳賀さんと堀越さん(左)

ぼり旗の設置や、回収板用のチラシの作成などを提案、パソコンを使ってそれぞれデザインを手がけた。のぼり旗は市マスコットキャラクター「やよいひめさん」と同校の「りすたん」が描かれ、「あなたの捨て方 大丈夫?」などと啓発メッセージが書かれている。チラシは「あなたの力が必要です」と協力を呼びかけている。

授業の発表会が4月、同校で開かれ、講師として招かれていた新井雅博市長が、市との協働事業化の検討を指示。その後、市清掃センター職員らと打ち合わせ、のぼり旗2種を製作、ごみ出しマナーが守られて

いない地区の収集所に設置することを決めた。

芳賀さんは「目立つような色使いや読みやすいフォントを工夫した」と説明、

堀越さんは「禁止を呼びかける強い言葉ではなく、問いかけて考えてもらえるフレーズを選んだ」と話していた。(加藤秀樹)

令和6年12月11日(水)上毛新聞掲載